



# 校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠

## みんなに合わせられない子ども どうする？

学校では、みんなに合わせる、ルールに従う、教師の指示に従うことが基本です。しかし、時として、それがなかなかできない子どもがいます。それを反抗的な態度と捉え、教師がその矯正に躍起になる。保護者とも連携はしてみるものの……。そのうち、他の保護者から、「授業中に立ち歩いているあの子どもはどうなっているのですか？」というような声も届いてくる。

こういったことは、どの学校でも起こり得ることです。

「自分の指導が生ぬるいのか？」そんなふうに自分を責めなくても……。

集団行動をどんなに無理強いしてもそれができない。それは、悪気があってやらないということでもありません。そういう特性の子どもは確かにいるのです。

「そういう子どもは専門機関と一刻も早くつなぐべきだ！」それはある意味正解です。

そうするためには、保護者が我が子のそういった実態を受け止めることが大前提になります。そうでなければ、話を1歩も前に進めることができないのです。

それを強引に進めようとすれば、大問題に発展しかねません。そこが難しいところです。

本校もこういったことにしっかり配慮しながら、決して焦らず、しかし確実に取組を進めているところですが、日々子どもたちに接していくとき、取りあえずこういった心構えが必要なのかと言えは……。

- 1 何が何でも集団に溶け込ませようと強いることは成果につながりにくい。
- 2 好きなこと(その子にとって意味のある好きなこと)に没頭させる環境をつくり、それが本人の強みになる働きかけを継続する。



ある阿賀っ子が描いてくれた先生たちの似顔絵です。とてもほんわかとした気持ちになりました。